「シンセサイザーの教育実践への活用」

領域名：老年保健看護

報告者：光来出由利子

教育及び実践の課題

高齢者の対象理解を実践的に学ぶ老年保健看護実習Iでは、地域で生活する高齢者を対象とし、観察やインタビューを通して、高齢者の個別性、多様性を理解することに取り組んでいる。一方で、インタビューや活動への参加を通した観察の精度は、学生の能力に任せており、対象の語りの文脈や非言語的表現の受け止めは、学生ごとにばらつきがある。高齢者理解の深まりに影響している学生のコミュニケーション力、観察力を補う方法の具体化には至っていないことが課題である。

活用した論文の概要

本論は、生活圏域と人がどのように相互交流するかを調査する質的参加型地理空間アプローチ（ⓐナラティブインタビュー、ⓑ同行インタビュー、ⓒGPS・活動日記によるマップベースのインタビューの 3 つの調査法で構成）を開発し実装した。対象は、カナダの 2 つの地域に住む 13 人の高齢者とし、3 つの調査法で得られたデータを分析し統合した後、調査法の有用性と実現可能性を検討した。そのることで得れる情動反応を洞察し理解すること、結果、ⓐは高齢者を時間的枠組みで捉えたストーリーの中で理解すること、ⓑは環境の影響や記憶を刺激すⓒは生活リズムやグループ活動の傾向など集団特性で理解する特徴があった。質的参加型地理空間アプローチは、高齢者の幸福を促進するための実践および研究において、人と場所の相互交流を通して、高齢者理解を促進する情報を与えることができる可能性を秘めていた。

教育及び実践への活用

学生のコミュニケーション力、観察力を補うために、手引き内容の見直しを行った。今年度は、COVID-19 の影響により遠隔での実習展開であったことから、学生の自立したインタビューになるよう聴取内容のイメージやポイントの詳細を記載したインタビューガイドを綿密に作成した。具体的には、本論の結果から、ⓐナラティブインタビューのストーリーの中で理解することを踏まえ、「高齢者が話しやすいことから聞いていく」ことを指示し、時系列にこだわらず最初に語られることに関心を持つようガイドした。また、ⓑ同行インタビューの情動反応を洞察し理解することを誘導するため、インタビュー時の高齢者の声のトーンやスピード、表情や視線などを観察するポイントとした。そして、老年看護のテキストを参考に、実習記録（情報用紙I・II）の各項目に聴取の目的とポイントを記載した。まとめでは、情報を統合しアセスメントにつながるよう、各実習記録の関連を考える視点をガイドした。

今回の取り組みでは、遠隔での実習展開でありながらも、充実した情報収集を促し、高齢者の個別性、多様性の理解につながっていた。但し、情報をアウトプットする実習記録の作成には特別な配慮が必要な学生もおり、ガイドは、コミュニケーション力、観察力を補い、情報収集を支えていくのには有用であった。

参考文献

Carri L H, Debbie L R, Suzanne H, et al. (2018). Toward Understanding Person-Place Transactions in Neighborhoods: A Qualitative-Participatory Geospatial Approach? The Gerontologist, 58(1), 89-100.